



2026年5月10～11日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素および潮流の観測結果をお知らせします。QRコードからもアクセスできます→

- ・湾内外の水温は前年同時期と比べ低く、平年並～やや高い
- ・湾内表層は高温・低塩化し、明瞭な時計回りの渦が形成されている
- ・湾内底層付近の溶存酸素量は少なく、今後貧酸素化が進む恐れ

### 【水温・塩分の鉛直分布】

噴火湾内の表層は水温7～9℃台、20m以深では水温5～8℃でした（図1）。湾内外の全層で平年並～やや高い水温となっています。胆振側湾口や湾中央部の水深20～40m層では前年並み、それ以外では前年と比べ1～3℃程度低い水温となっています。

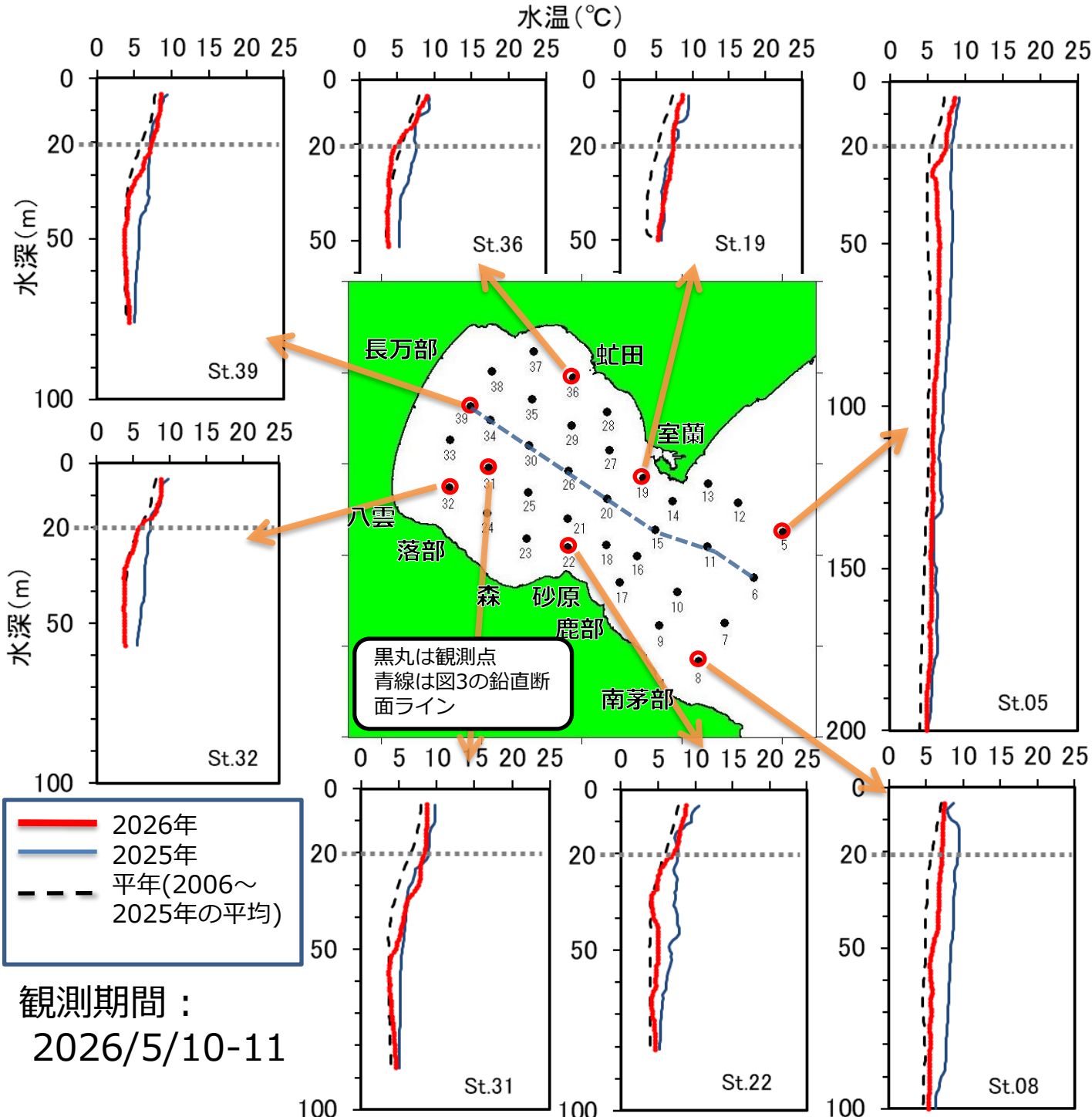


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

観測期間：  
2026/5/10-11

## 【水温, 塩分, クロロフィルaの水平分布】

### ■水温・塩分

2026年の湾内深度30mの水温は4~7℃台, 塩分は32.5~32.8の範囲で, 噴火湾の中央部で比較的高温・低塩分となっていました。また, 前年同時期と比べると水温・塩分ともおおむね低くなっていました(図2)。

### ■クロロフィルa (※ホタテガイの餌の指標)

2026年は水深30mにおいて湾内外ともに1~2 $\mu\text{g/L}$ と, 前年同時期と比べやや低い値となっていました。

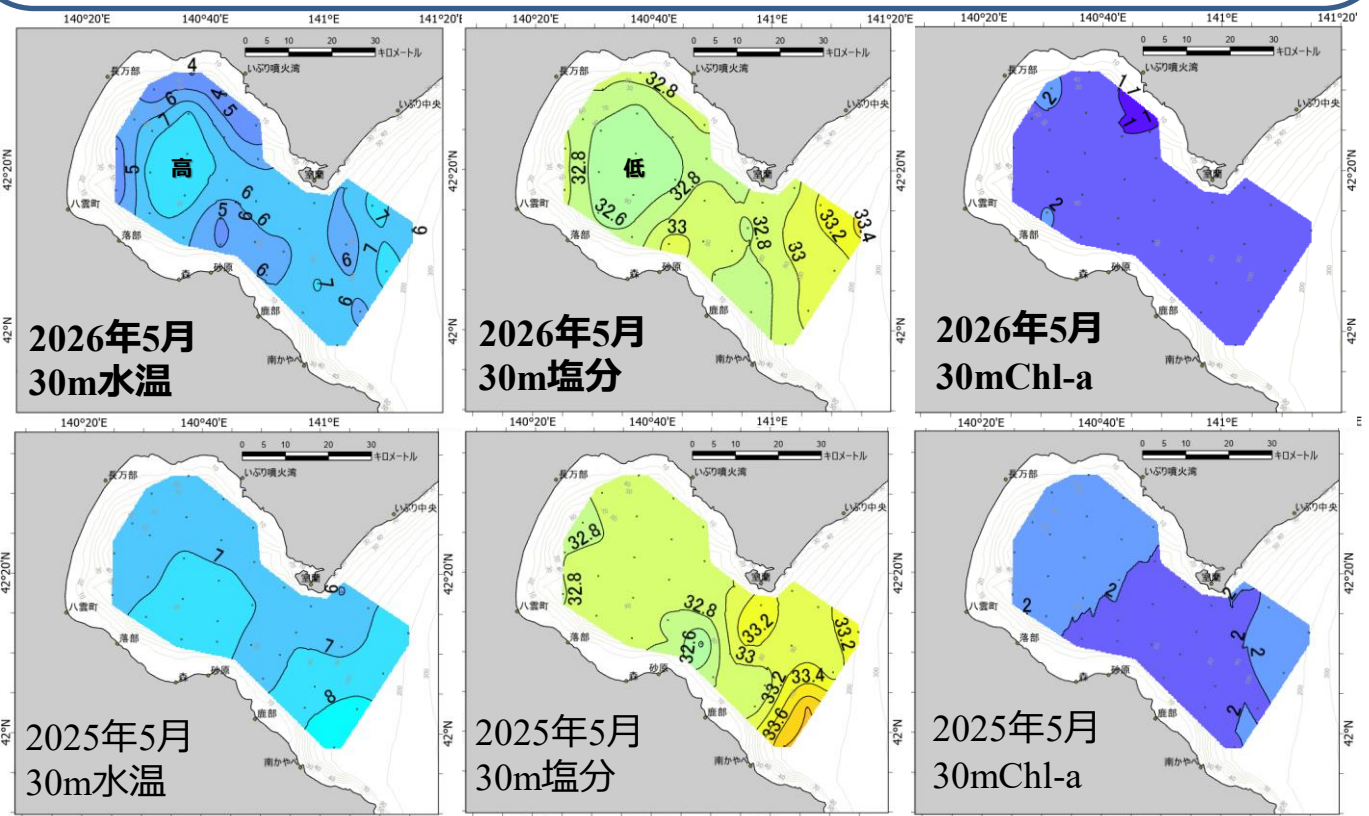


図2 水深30mにおける水温(左)・塩分(中)・クロロフィルa(右), 上: 2026年5月, 下: 前年同時期

## 【流向流速の水平分布】

噴火湾内の水深13mでは時計回りの渦が形成されています(図3)。

※夏季にかけて湾内表層が低塩・高温化すると噴火湾内に時計回りの渦が形成されます。

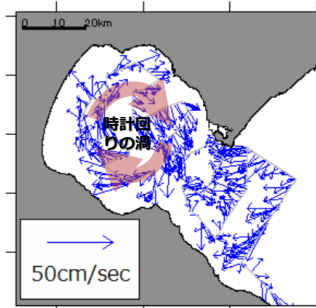


図3: 流向流速(深度13m)

## 【溶存酸素の水平分布】

2026年の湾内海底上5mの溶存酸素は2.5~5.3で, 前年同時期と比べ低くなっていました(図4)。現在噴火湾内は成層していて上層から酸素が供給されにくいことから, 夏季にかけて海底の貧酸素化が進行する恐れがあります。

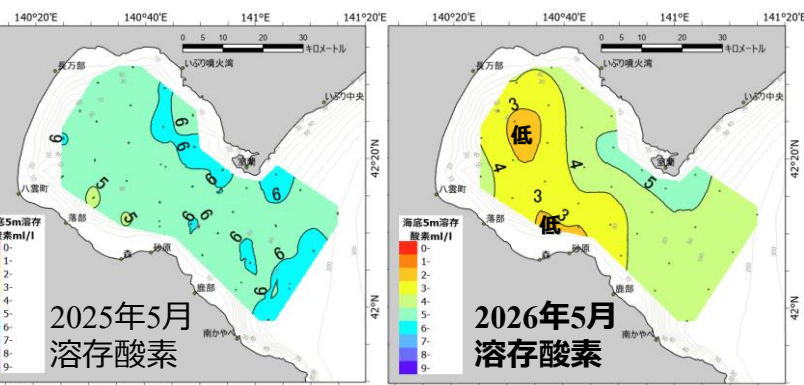


図4: 海底上5mの溶存酸素(左: 前年同時期, 右: 2026年5月)

# 【3年間の比較：水温，塩分，溶存酸素，密度の鉛直断面】

## ■水温・塩分

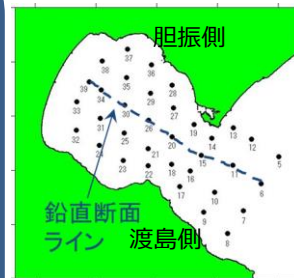
2026年5月の湾内における水温は40m以深で3~6℃台で，前年よりも低く，一昨年より高くなっていました。40m以浅の塩分は32.8前後と，過去2年と比べ低くなっています。

## ■溶存酸素

湾内の水深90m付近では，3ml/L以下となっています。

## ■密度

湾内の水深30mにおける密度はおおむね25.5で，過去2年の同時期と比べ低密度となっています。



※鉛直断面は海図の断面ラインを渡島側から見たものです

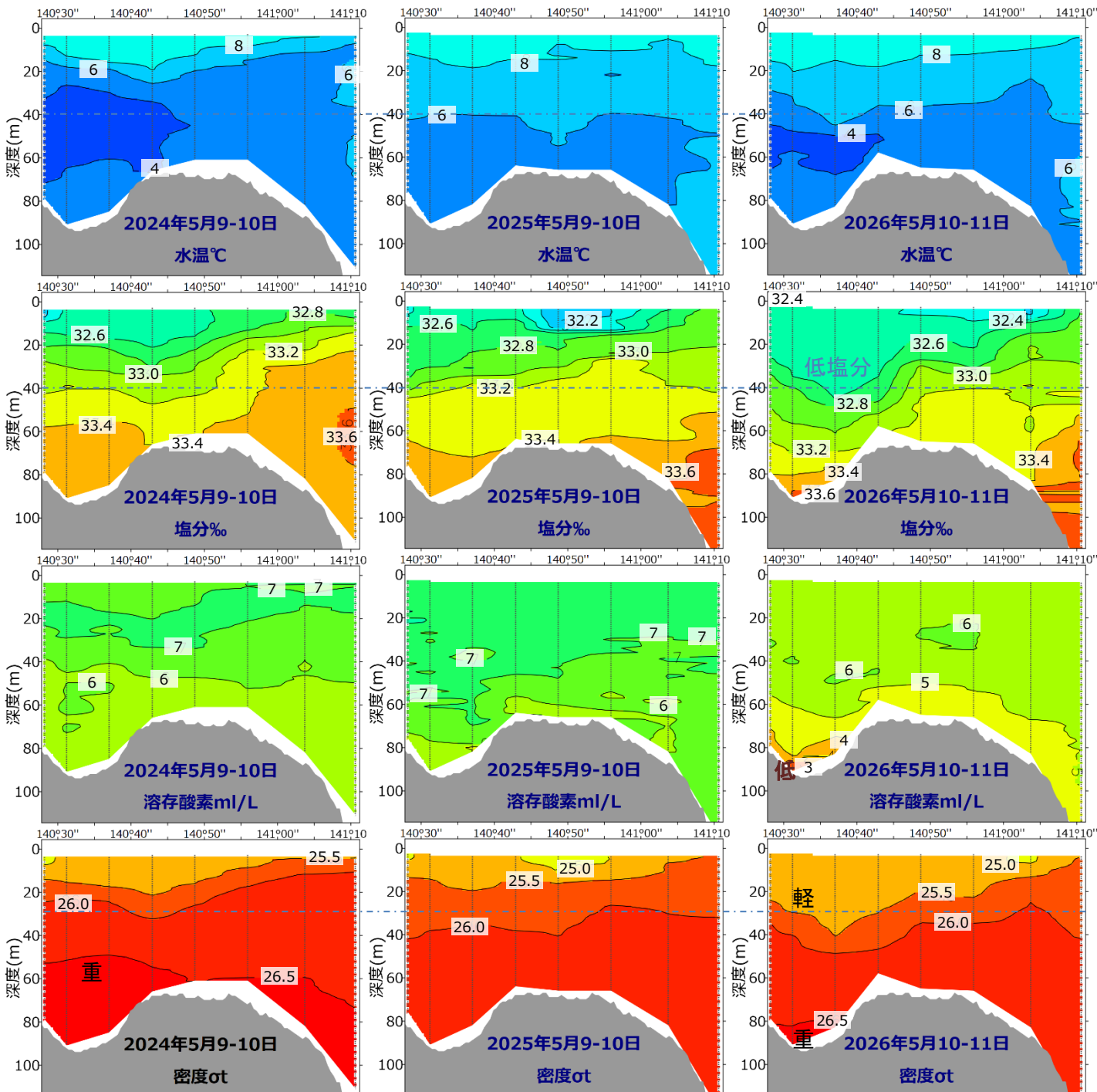


図5 左：2024年5月（2年前），中：2025年5月（前年同時期），右：今回の調査  
上から順に「水温」「塩分」「溶存酸素」「密度（海水の重さ）」